

令和 4 年 4 月 1 日

プレパンデミックワクチンの今後の備蓄の種類について（案）

厚生科学審議会感染症部会
新型インフルエンザ対策に関する小委員会

1. プレパンデミックワクチンの備蓄の経緯

- 平成 9 年に世界で初めて香港において鳥インフルエンザ A(H5N1) ウイルスによる感染確定者が報告された。
- 病原性の高い H5N1 ウイルス由来の新型インフルエンザが発生した場合、その病原性の高さにより、大きな健康被害が引き起こされると想定されたことから、我が国では平成 18 年度から H5N1 プレパンデミックワクチンの備蓄を行うこととした。
- 備蓄するワクチン株については、第 19 回厚生科学審議会において、検討時点において「危機管理上の重要性（※ 1）」が高いワクチン株の備蓄を優先することとしている。
- 第 25 回厚生科学審議会感染症部会（平成 30 年 6 月）において、近年の鳥インフルエンザの発生状況等から、H7N9 株（A/Guangdong/17SF003/2016（IDCDC-RG56N）（※ 2）を備蓄することとした。

（※ 1）①人での感染事例が多いこと、②人での重症度が高いこと、③日本との往来が多い国や地域での感染事例が多いことの 3 つの観点から、総合的に評価し判断することとしている。

（※ 2）H7N9 鳥インフルエンザウイルスのうち、高病原性から低病原性まで広く交差性を示す特徴がある。

2. 令和 4 年度に備蓄すべきワクチン株について

- 過去 5 年間の世界における鳥インフルエンザウイルスへの感染症例については、7 種のインフルエンザウイルスの亜型があり、H5N6・H9N2・H7N9 鳥インフルエンザウイルスが多く出ている。
- 平成 25 年以降における、H7N9 鳥インフルエンザウイルスの人への感染者数は、中国で 1,568 人となっており、このうち少なくとも 616 人の死亡事例が報告されていることから、人の重症度が高い。
- 中国は日本との往来が最も多い国である。
- 2021 年に家禽より分離された H7N9 のウイルスは、A/GD/SP440-E1/2017（A/Guangdong/17SF003/2016 類似株）と抗原性が離れて来ている。一方 A/Gansu/23277/2019 は、遺伝子系統樹上これらのウイルスと近いが、A/Gansu/23277/2019 に対する血清を用いた抗原性の評価はまだ行われていない。
- A/Gansu/23277/2019 については、現時点で企業からは同株を用いた早期のワクチン製造は困難との報告を受けている。
- 現時点で製造可能な亜型の中では、引き続き H7N9 株（A/Guangdong/17SF003/2016（IDCDC-RG56N））が最も危機管理上の重要性が高いと考えられる。
- 今後、備蓄するワクチン株を変更するかについては、企業での製造可能性を含め、最新の知見を踏まえて早期に検討を行う必要がある。

提案

1,000 万人分備蓄するプレパンデミックワクチンのワクチン株については、現時点で製造可能な亜型の中では H7N9 株が引き続き最も「危機管理上の重要性」が高いと考えられるため、令和 4 年度の備蓄株については、第 25 回厚生科学審議会感染症部会（平成 30 年 6 月）で承認された方針（H7N9 株（A/Guangdong/17SF003/2016（IDCDC-RG56N）の確保）を継続することとする。なお、令和 5 年度のワクチン株選定については、企業での製造可能性を含め、最新の知見を踏まえて早期に検討を行う。

※ なお、今般の新型コロナウイルス感染症に対するワクチンの研究開発などを踏まえ、今後の研究を含めた備蓄方針については、改めて検討することとする。